

租税教育だより



中学生の「税についての作文」で税務署長賞を受賞した軽井沢中学校3年の藤本心音さんによる
一日税務署長

(詳細は5ページをご覧ください)

第21号

紹介します！ 租税教育の取組



◆中学・高校社会科の先生に租税教育講座を開催

9月28日、長野県総合教育センターで中学・高校の社会科の先生を対象に租税教育講座が開催されました。授業づくりの参考として、グループ討議の実演を交えた内容に、先生方からは「公平さを考える演習は大変わかりやすかった」「生徒にも同じように考えさせたい」と授業場面に生かす手段として広がりを感じてもらったことができました。



◆小学生が「税」のパネルを寄贈

6月25日に渡部暁斗選手から長野市立加茂小学校6年生が租税教室を受けました。後日、その租税教室を元に見童が、「くらしを支える税」をテーマに描いた6枚のパネルを作成し、10月29日に長野県税務署を訪れ、川上署長に手渡しました。見童は、「制作は大変でしたが、他の児童と団結でき、税についてさらに学ぶことができました」と感想を述べていました。



◆3団体合同による租税教室の開催

12月17日、安曇野市立穂高南小学校6年生を対象にクラス別に信州大学経済学部の学生を含めた3団体（長野県中情報税務事務所・松本法人会）が同時に租税教室を実施しました。

信州大学の学生は税の大切さをどうしたら伝わるかを考え、易しい言葉で税のしくみや役割を説明しました。松本税務事務所・法人会の指導のもと実演を重ねて講師役に臨み、税の意義を小学生に教えることにより深く学びました。

三者三様の工夫が凝らされた租税教室となりました。



次代を担う子どもたちに向けて

長野県租税教育推進協議会長
長野県教育長 原山 隆一

皆様方には平素より、当協議会の事業につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

長野県租税教育推進協議会は、県内の教育関係機関や税務関係機関・団体を中心に、租税教育の推進と充実を図ることを目的に各種事業に取り組んでおります。

租税教育の目指すところは、次代を担う児童・生徒及び学生が、租税の意義や役割を正しく理解し、その使い道に関心を持ち、将来の納税者として「社会や国・県・市町村のあり方を主体的に考える」という自覚を育てることであり、学校教育法で目標として定める、社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う上で大きな意義を有することと考えております。

平成二十八年度に選挙権年齢が満十八歳以上に引き下げられ、また、平成二十九年三月に学習指導要領が改訂されたことに伴い、主権者教育が注目されております。有権者になるということは、選挙を通じて税の集め方や使われ方、地域社会や国家のあり方を他

人事ではなく、自らの課題として考え、自分なりに判断し、政治に参加していくことです。租税教育は有権者として求められる力を身に付けるための役割をも担っていると考えております。

文部科学省・総務省・国税庁は平成二十三年に租税教育推進関係省庁等協議会を発足させ、賛助会員でもある日本税理士会連合会の協力も受けながら、租税教育の推進に取り組んでおり、当協議会においても積極的に租税教室の開催を行っております。

当協議会における主な事業としては、租税教室への講師派遣のほか、租税教育用副教材「わたしたちのくらしと税金」の作成（税に関する高校生の作文、中学生の「税についての作文」への取組支援などが挙げられます。「わたしたちのくらしと税金」は、税金のしくみやその使い道についてわかり易く解説したもので、県内の小学六年生全員を対象に配付しており、学校現場等において有効に活用されております。作文募集等の事業については、次代を担う生徒が税の意義や役割につ

いての理解を一層深める一助となるものと認識しており、今後も継続して行っていく予定としています。

さて、現在、少子・高齢社会への対応は喫緊の課題です。これまでの延長線上にない新しい時代に子どもたちが生きていくためには、今まで受け継がれてきた先人の取組や知恵といったものを踏まえ、現状を適切に理解し、未来に向けて自ら課題を見つけ解決していく力と、この社会をより良くするために積極的に自らも貢献し、社会を創造していくという資質・能力を育むことが重要です。国民生活や経済社会と密接に関連する税を通して、現在から未来に向けた地域社会や国のあり方を考える租税教育の果たす役割は益々大きなものとなっております。

今後も租税教室をはじめ各種事業を通じて、子どもたちの税に対する学習を支援して参りたいと考えておりますので、皆様方の更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

租税教育推進協議会の活動

長野県租税教育推進協議会は、長野県教育長を会長に、県小学校校長会長、県中学校校長会長、県高等学校校長会長、県特別支援学校校長会長、県私立中学高等学校協会会長、県市町村教育委員会連絡協議会会長、県総務部長、県市長会長、県町村会会長、県納税貯蓄組合連合会会長、県東信越税理士会長野県支部連合会会長、県法人会連合会会長、長野県財務事務所長、関東信越国税局国税広報広聴室長、長野県税務署長で構成されています。

- ① 小学生向け租税教育副教材「わたしたちのくらしと税金」の作成
- ② 各学校や社会人向けの租税教室の開催支援
- ③ 税に関する作文の募集活動の支援
- ④ 「租税教育だより」の発行



信濃中野
高校生に実践的な租税教室

12月13日、中野西高等学校で、来春の進路が確定した3年生の生徒に対し、租税教室を開催しました。パソコン教室において、国税庁ホームページの確定申告書等作成コーナーの中で実際に確定申告書の作成を体験するなど、卒業後に役立つよう、実践的な内容の教室となりました。



伊那
税理士と合同で租税教室を開催

12月6日、信州豊南短期大学で1年生を対象に、伊那税務署長と税理士が講師となり租税教室が開催されました。財政、マイナンバー、消費税軽減税率制度など、最近報道される身近な内容について説明を行うほか、税務署の仕事を紹介し、募集活動も行うなど充実した内容となりました。



諏訪
中学生の職業体験を実施

5月30、31日に諏訪西中学校の生徒3名が諏訪税務署を訪れ、職業体験を行いました。税務署の仕事の概要や税金についての講義の後、模擬税務調査や収入印紙の真贋判定などを行いました。興味を持った生徒からは、「ぜひ税務の職場に入りたい」との声も聞かれました。



上田
税務署取材

11月13日、上田染谷丘高等学校、上田西高等学校の新聞委員会による税務署取材が行われました。「税を考える週間」の歴史、消費税率引上げの経緯や消費税軽減税率制度などについて、委員から職員に活発な質問がされ、鋭い質問に、職員がたじろぐ場面もありました。



長野
教師の印、将来のための租税教室

1月8日、1月17日の2日間、信州大学教育学部の教師を目指す学生を対象に租税教室が開催されました。長野税務署川上署長から日本の財政や税制のほか、源泉徴収票の見方など身近な税について説明がされ、その後広報官が租税教室の実演を行いました。学生たちからは「教師になったときにぜひ授業に取り入れたい」との感想が寄せられました。

県内各地の租税教育に関するたよりを紹介します。

県内各地の租税教育

こんなことしてま〜す!



木曾
ポスター・作文の入賞作品の展示

11月9日～11月19日、木曾町文化交流センターの1階ロビーで、税の「ポスター」・「作文」入賞作品展を行いました。今年からの展示でしたが、新聞各社やケーブルテレビ、有線放送のご協力をいただき、木曾郡内に広く周知することができました。



佐久
中学生の一日税務署長

11月15日、中学生の「税についての作文」で税務署長賞を受賞した軽井沢中学校3年の藤本心音さんに一日税務署長を委嘱しました。一日税務署長のタスキを掛けて、「名刺交換」や、「署長訓示（作文朗読）」などを行い、税に対する率直な想いを職員に強く伝えました。



大町
グループ討議で税の公平を考える

11月30日、池田町立高瀬中学校において租税教室が開催されました。消費税と所得税のしくみを学んだ後、「公平」をキーワードに、様々な生活状況等の条件下で公平な税制についてグループ討議を行いました。アクティブ・ラーニングによる租税教室では、様々な意見・提案があり、公平な税のあり方を考えることができました。（写真は「大糸タイムス」の提供）



飯田
税に関するポスター・作文展を開催

11月9日～11月18日、イオン飯田アップロード店及びアピタ高森店において、「小学生の税に関するポスター及び中学生の税についての作文」展を開催しました。児童や生徒が一生懸命作成した作品を多くの方々に見ていただき、作品展は税について考える良い機会となりました。



第15回クイズ税金百科

10月27日、長野県税理士会館において、中学生対抗税金クイズ大会「クイズ税金百科」が開催されました。管内の中学生から例年より多い8チーム、24名の生徒が参加し、同点決戦まで行う白熱した大会となりました。警察・市役所・ゆるキャラも集まり、大いに盛り上がりま



松本
中学生の「税についての作文」入賞者による一日税務署長

12月14日、松本税務署において、「一日税務署長イベント」が開催されました。今年で52回目となる中学生の「税についての作文」において、全国納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞した中学生、岡本京夏さんが「一日税務署長」に就任し、訓示として入賞作品を読み、職員を激励しました。

平成30年度 税に関する作文受賞者の紹介

長野県租税教育推進協議会では、税に関する作文の募集の支援を行っています。今年度は県内各校の生徒の皆さんから8,128編のご応募をいただきました。その中から当協議会でも、優秀な作品の中から会長賞を高校、中学合わせて20編に贈呈いたしました。

本号では、各賞を受賞した作品のうち、「国税庁長官賞」に輝いた高橋茜さん（中学3年）と関東信越国税局長賞・長野県租税教育推進協議会長賞・長野県税務連絡協議会長賞の皆さんの作品をご紹介します。

なお、関東信越国税局長賞等の作品は、紙面の都合上タイトルのみを紹介させていただきます。

国税庁長官賞（中学生の作文）

「税は笑顔をつくる」

学校法人聖啓学園佐久長聖中学校三年 高橋 茜

木の香りがすると、私は真っ先に思い出すことがある。それは、私が卒業した小学校の新しい校舎のことだ。私たちの住む長野県産のカラマツ材が使われた優しい雰囲気のは、とても居心地が良かった。また、体育施設には、省エネに配慮した最新の設備が整っていた。この恵まれた環境も、税のおかげだと知ったのは、つい最近のことだった。

今まで私は、税について、まだ働いていない自分には、関係のないことだと思っていた。だが、こんなに身近なところで税が使われているのだ。それを知ることができたきっかけは、国民の三大義務のひとつである納税について、自分がとても無関心だったため、これではいけないと思い、税の使い道を調べてみたことだった。

調べていく中で、私が特に関心を持った税の使い道が、教育だった。私が通っていた小学校は、児童が年々増加し、全校児童は、千人を超えていた。校舎は、増築を重ね、まるで迷路のようだし、体育館は、全校が集まるととても狭く感じられた。運動会では、校庭に人があふれ、応援に来てくれた人は、座る場所もなくずつと立ったままだった。このように、不都合なことが多く、学校が二つに分離することになった。小学校新設だけでなく、もとの小学校も大規模な建て替えが行われ、

平等に最適な環境が与えられることとなった。私たちは、新しい環境で楽しく学び、遊んだ。ここにあった笑顔のものは、税だったのだ。

国では、校舎や体育館施設建設費用として、年間七百六十六億円、義務教育諸学校の児童生徒が使用する教科書無償配布費用として、年間四百三十二億円の税が使われるそう。これだけの税が教育に使われることを考えると、未来を担う立場の者としての責任を強く感じた。そして、税のおかげで、私たちは、平等に恵まれた環境で学び、笑顔で過ごせるのだとわかり、税のありがたみを実感した。

さらに調べた時、もし税がなかったらと考えると、不安も感じた。最も感じたのは、一番多くの税が使われている社会保障だ。税がなかったら、介護サービスも今のようには利用できないだろう。以前、私は、介護施設で職場体験をさせてもらったことがある。そこには、入所者の方が安心して過ごせるよう、様々な工夫が施されていた。たくさん笑顔があった。ここにも税が使われている。

「税は笑顔をつくる。」これは、税について調べたことにより、私が思ったことだ。税は、全ての国民にとって、不可欠なものだとわかった。税のおかげで、たくさん笑顔があり、将来、私も社会に出て、一生懸命働き、しっかりと納税できる人になろうと思う。そのために、今の私にできることは、税によって整えられた恵まれた環境で、精一杯勉強することだろう。これからも、全ての人が、笑顔で過ごせる社会が続くことを願って。

◆税に関する高校生の作文

関東信越国税局長賞

「税の本質」 長野県上田染谷丘高等学校三年 内藤愉井

長野県租税教育推進協議会長賞

- 「税の必要性と義務」 長野県長野商業高等学校二年 松本愛樹
- 「税金について見直す」 長野県穂高商業高等学校二年 渡邊もえ
- 「より身近に、快く。」 長野県上田染谷丘高等学校三年 齊藤さくら
- 「税金とは何なのか」 長野県飯田OIDE長姫高等学校一年 安藤 葵
- 「消費税の捉え方」 長野県諏訪実業高等学校一年 名取未希
- 「災害から考えたこと」 長野県赤穂高等学校三年 堀 美咲
- 「私たちの生活と消費税」 長野県中野西高等学校二年 越 宇浪
- 「増税について」 長野県池田工業高等学校三年 有馬 秀
- 「復興支援と税金」 長野県野沢北高等学校二年 三石季奈
- 「私たちの生活を支える税金」 長野県木曾青峰高等学校三年 狭場 悠
- 「身近な税金の役割」 長野県飯田OIDE長姫高等学校一年 山崎未結
- 「税金と福祉」 長野県蘇南高等学校三年 中村あい

◆中学生の税についての作文

国税庁長官賞

「税は笑顔をつくる」 学校法人聖啓学園佐久長聖中学校三年 高橋 茜

関東信越国税局長賞

「一人の手から国境を超えた町造りへ」 駒ヶ根市立赤穂中学校二年 高倉空翔

長野県租税教育推進協議会長賞

- 「サイクル」 須坂市立墨坂中学校三年 宮川彩音
- 「税の大切さ」 学校法人才教学園才教学園中学校一年 小林美咲
- 「増税に対して」 千曲市立植生中学校三年 吉原 凜
- 「経験より感じた税の重要性・意義」 飯田市立竜峽中学校三年 林 史也
- 「税の大切さ」 岡谷市立岡谷東部中学校三年 小川楓太
- 「実はとても身近な税金」 宮田町立宮田中学校三年 野村愛佳
- 「税なんて必要ない？」 中野市立高社中学校三年 武田ほたる
- 「災害と税金」 白馬町立白馬中学校三年 荒木沙羅
- 「税金」 佐久市立望月中学校三年 篠原陽菜
- 「あたりまえ」と「ありがとう」 木曾町立日義中学校三年 越取ひろみ

平成三十年度

租税教育推進校等表彰

国税庁では、租税教育の推進やその環境整備などに特に功績のあった学校、市町村、教育委員会等に対し、毎年感謝状を贈呈しています。平成三十年度、県内で表彰された学校等は、次のとおりです。

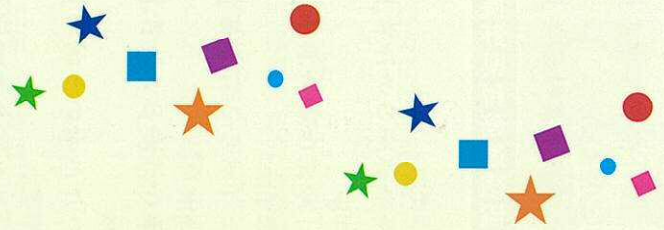
関東信越国税局長感謝状

- 上松町立上松小学校
- 長野市立加茂小学校
- 学校法人松商学園松本秀峰中等教育学校
- 千曲市立戸倉上山田中学校
- 学校法人どんぐり向方学園どんぐり向方中学校
- 諏訪市立上諏訪中学校

税務署長感謝状

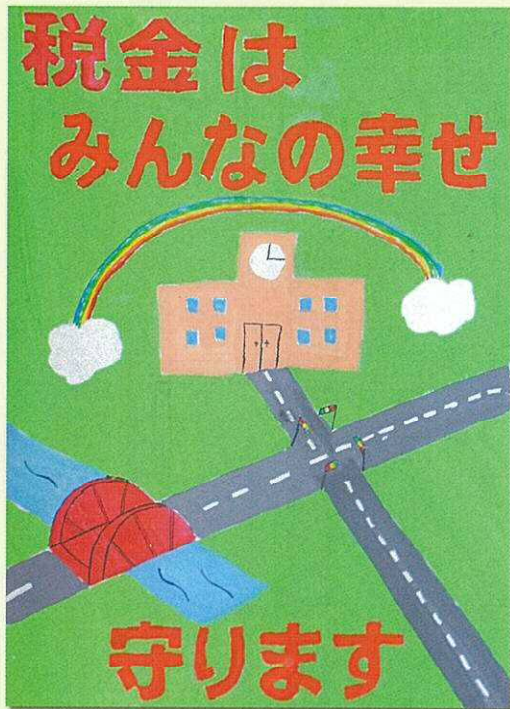
- 伊那市立富岡小学校
- 伊那市立立上小学校
- 関東信越税理士会信濃中野支部
- 大田市立大町西小学校
- 軽井沢町立軽井沢中学校
- 木曾町立三岳小学校

平成30年度 税のポスター



木曾郡租税教育推進協議会
優秀賞

木曾税務署長賞

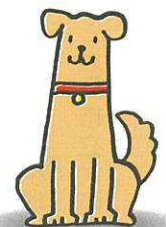


木祖村立木祖小学校 6年
内山 紗那

木曾町立開田小学校 6年
小林 埜乃

租税教室のご案内

- ・租税教育推進協議会では、講師を学校に派遣して、「税の使い道」「税の役割」「税の必要性」などについて、分かりやすくお話しさせていただいております。
- ・実施にあたっては、先生方と開催の内容・場所・時間について打合せを行い、ご要望にお応えするようにしています。
- ・講師（税務署職員、地方税職員、税理士など）の派遣に関する費用は一切かかりません。



◆ 講師の派遣、租税教育に関する お問い合わせ・お申し込みは…

●●● 〈最寄りの税務署 総務課 または 長野・松本の税務広報広聴官へ〉 ●●●

長野税務署 026(234)0116	松本税務署 0263(39)3272
上田税務署 0268(21)0445	飯田税務署 0265(22)1165
諏訪税務署 0266(57)5210	伊那税務署 0265(72)2171
信濃中野税務署 0269(22)3151	大町税務署 0261(22)0410
佐久税務署 0267(67)3460	木曾税務署 0264(22)2024